

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	内分泌・生殖・感覚統合のしくみ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	8 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	後期 月曜日3,4限	教室名	203,202
担 当 教 員	孫 明洲	実務経験とその関連資格	2003年より21年間続き、医療系基礎医学の教員として、看護師・理学療法士・作業療法士・視能訓練士・言語聴覚士などの生理学・解剖生理学・臨床医学など講義を担当した。			
《授業科目における学習内容》						
外部からの情報を取り入れるしくみ(感覚器の構成と感覚機能)について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】終講試験 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
メディカ出版「人体の構造と機能(1)解剖生理学」						
《授業外における学習方法》						
①授業の前に予定授業内容を教材で調べる。②授業後に授業内容を教材で確認する。③配布される練習問題や国家試験過去問などを練習する。④正答出来なかった小テストの内容を強化勉強する。⑤分からない部分は確認する。						
《履修に当たっての留意点》						
感覚器の構成と感覚機能について学習する。病態治療Vや						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	眼球と眼球付属器の構造を述べることができる 通光部の結像、網膜の光受容を述べることができる。 視力と視野、視覚伝導路と視野欠損を述べることができる。	「解剖生理学」第14章(p362-391)	教科書を読むこと。 練習問題を解いておくこと。	
		各コマにおける授業予定	眼球と眼球付属器の構造と機能 眼球の運動、視覚の調節 視覚の加齢性変化			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚と前庭感覚の機能構成を述べることができる 嗅覚と味覚の特徴を説明できる	「解剖生理学」第14章(p362-391)	教科書を読むこと。 練習問題を解いておくこと	
		各コマにおける授業予定	耳の構造と聴覚・前庭感覚 聴覚の加齢性変化 味覚器の構造と味覚、嗅覚器の構造と嗅覚			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	体性感覚の構成、体性感覚伝導路を説明できる。	「解剖生理学」第14章(p362-391)	教科書を読むこと。 練習問題を解いておくこと	
		各コマにおける授業予定	体性感覚(皮膚感覚、深部感覚)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓感覚や内臓痛の特徴を述べることができる。	「解剖生理学」第14章(p362-391)	教科書を読むこと。 練習問題を解いておくこと。	
		各コマにおける授業予定	内臓感覚			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標				
		各コマにおける授業予定				